

■■最強の投資手法「スーパーボリンジャー」によるシンプルトレード■■

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。分析は、全て、10月9日のNY市場終値(先週末終値)時点での判断です。

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、

スイングトレードであれば、主に4時間足での売買判断、

ゆったりデイトレードであれば、主に1時間足での売買判断、

デイトレードであれば、主に5分足での売買判断となります。

■■ドル円

◆週足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウントレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。カウントレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $+2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、

- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

◆日足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウンタートレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。カウンタートレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

◆4 時間足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウンタートレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。カウンタートレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、

等々。特に、(2)の条件がクリアされることが望ましい。

◆1 時間足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウンタートレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。カウンタートレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアされることが望ましい。

■ユーロドル

◆週足

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)初動で終値が -2σ を下回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

目先、終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が -1σ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

◆日足

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)初動で終値が -2σ を下回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

目先、終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が -1σ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

◆4 時間足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。

目先、カウンタートレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。

カウンタートレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

◆1 時間足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。

目先、カウンタートレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。

カウンタートレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。

そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

■ ■ 豪ドル/ドル

◆ 週足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウントレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。カウントレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

◆ 日足

調整反騰局面。

本格下落トレンド局面の後、終値が -1σ ラインを上回ったことで、調整反騰局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は買いを優先させたい局面。

そして、センターラインは最初の戻りの目途となるが、終値がセンターラインを上回ると、+2 σ ラインを目指す本格的な調整反騰局面に入る。

一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は、一旦は戻り売りゾーンと読む。

また、終値が-2 σ ラインを下回るまでは、-1 σ ラインから-2 σ ラインのゾーンは一旦は押し目買いチャンスと判断する。

◆4 時間足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウントレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。カウントレードのトレード戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯では戻り売り、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が+-2 σ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

◆1 時間足

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる
一方、終値が同ラインを下回ると-2 σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと+2 σ ラインの間を

往來しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となり、 $+2\sigma$ ライン近辺では戻り売り戦略が有効となりやすい。一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面入りする可能性が高まるため、買いポジションは一旦撤退となる。

■■ポンドドル

◆週足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウンタートレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。カウンタートレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

◆日足

緩やかな下落トレンド局面と調整反騰局面が併存中。

終値が -1σ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしたが、最初の戻りの目途であるセンターライン近辺まで上昇した後に反落している。

今後、終値がセンターラインを超えないかぎり緩やかな下落トレンド局面と読む一方で、終値が -2σ ラインを下回らないかぎり、調整反騰局面継続のシナリオも残る。

トレード戦略としては、センターラインにかけては、一旦は戻り売りを優先させたい一方で、終値がセンターラインをブレイクすると、本格的な調整反騰局面に入ることから、一転して買い戦略が有効となる。

また、終値が -2σ ラインをブレイクするまでは、押し目買い戦略が有効である一方で、終値が同ラインを下回ると、あらためて本格下落トレンド局面入りするため、売り戦略が有効となる。

◆4 時間足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウンタートレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。カウンタートレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアされることが望ましい。

◆1 時間足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウンタートレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。カウンタートレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、

等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

■ ■ ユーロ円

◆ 週足

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)初動で終値が -2σ を下回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

目先、終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が -1σ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

◆ 日足

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな下落トレンドの特徴がセンターラインと -2σ ラインの間を往来しながらゆっくりと下落するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は戻り売り戦略が有効となり、 -2σ ライン近辺では押し目買い戦略が有効となりやすい。一方、終値がセンターラインを上回ると、本格的な調整反騰局面入りする可能性が高まるため、売りポジションは一旦撤退となる。

◆ 4 時間足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。

目先、カウンタートレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。

カウンタートレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

◆1 時間足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウンタートレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。カウンタートレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

■ ■ 豪ドル円

◆ 週足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。

目先、カウンタートレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。カウンタートレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアされることが望ましい。

◆日足

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな下落トレンドの特徴がセンターラインと -2σ ラインの間を往来しながらゆっくりと下落するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は戻り売り戦略が有効となり、 -2σ ライン近辺では押し目買い戦略が有効となりやすい。一方、終値がセンターラインを上回ると、本格的な調整反騰局面入りする可能性が高まるため、売りポジションは一旦撤退となる。

◆4時間足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウンタートレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。カウンタートレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、
等々。特に、(2)の条件がクリアされることが望ましい。

◆1 時間足

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる
一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を
往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は
押し目買い戦略が有効となり、 $+2\sigma$ ライン近辺では戻り売り戦略が有効となりやすい。
一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面入りする可能性が高まる
ため、買いポジションは一旦撤退となる。

■■ポンド円

◆週足

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)初動で終値が -2σ を下回ったこと、
(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

目先、終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が -1σ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

◆日足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウンタートレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。カウンタートレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアされることが望ましい。

◆4 時間足

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウンタートレードを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面と判断する。カウンタートレードのトレード戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯では戻り売り、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯では押し目買いが推奨される。そして、終値が $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクするとロスカットとなり、その時点で、相場が放れる、つまり、トレンドが発生する可能性が高まる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアされることが望ましい。

◆1 時間足

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる
一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を
往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は
押し目買い戦略が有効となり、 $+2\sigma$ ライン近辺では戻り売り戦略が有効となりやすい。
一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面入りする可能性が高まる
ため、買いポジションは一旦撤退となる。

以上です。